

「えひめ先進環境ビジネス推進セミナー カーボンフットプリント編」紹介

Q 「えひめ先進環境ビジネス推進セミナー、カーボンフットプリント編」と難しそうな言葉が並んでいるのですが、これはどういうセミナーなのか分かりやすく解説していただけますか。

A はい、皆様は、地球温暖化という言葉や、その結果、北極では、白クマが溺れてしまうほど氷が沢山融けてしまっているというニュースを耳にされたことがあると思います。

Q はい、最近よく聞くようになりました。その原因が二酸化炭素などの「温室効果ガス」であるということもよく聞きますね。

A 良くご存じですね。そこまでご存知なら「京都議定書」という言葉や「排出量取引」という言葉も聞かれたことがあるんじゃないですか。

Q はい、詳しくはありませんが、「京都議定書」は、世界中の国が地球環境を守るために、二酸化炭素の量を減らしましょうという約束で、「排出量取引」は、二酸化炭素を減らした国や企業が、減らせない国や企業に減らした分を買い取ってもらうことを意味すると思っっているのですが。

A ピンポン、正解です。このような話題が頻繁に聞かれるようになったのは、地球環境を守りましょうという活動が、どんどん盛んになってきているからです。それは、汚れた川や汚れた海を考えてみれば分かるように、自然と言うものは一度壊してしまうと元に戻すには何十倍何百倍もの費用や時間がかかります。しかも元に戻ったとしても失われてしまったものがすべて帰ってくるわけではありませんね。

そして、地球環境を守りましょうという活動から、「排出量取引」のような新しいビジネスが生まれました。世界には証券取引所と同じように排出量取引所があり、株と同じように価格が高騰したり暴落したりしているのですよ。

Q へ～え、驚きですね。

A はい、今回開催されます「えひめ先進環境ビジネス推進セミナー」は、この排出量取引のように環境に関する新しいビジネスについて勉強していきましょう、そして、早く環境ビジネスに取り組むことによってビジネスチャンスを拡大しましょうというセミナーなのです。

Q なるほど、そして色々な環境ビジネスの内、今回は、「カーボンフットプリント」について学びましょう、ということなのですね。

A はい、その通りです。「カーボンフットプリント」とは、直訳すれば「炭素の足

跡」ですが、これは、お百姓さんが、せっかくきれいに耕したのに、イノシシがクチャクチャに踏み荒らした畑のように、「人間が温室効果ガスをだして、地球環境をクチャクチャに踏みつけた」という反省の意味もあるのですが、ビジネス面においては、食べ物や着るものなど、商品のライフサイクル、つまり原料の採掘や栽培から、製造、加工、包装、輸送、購買、消費、そして廃棄やリサイクルなど商品が生まれてから無くなるまでの各段階で排出された温室効果ガスの総合計を重量、つまり重さで表し、商品に表示しましょうと言うものなのです。

Q ヘ～え、温室効果ガスを見えるようにする、つまり可視化と言うことですか。

A すうごい、その通りですよ。ですからカーボンフットプリントのことをカーボンラベリングとも呼ぶんですよ。

Q もう少し具体的に教えていただけないでしょうか、そして、カーボンフットプリントがビジネスにどうかかわるのかも教えてください。

A 例えばイギリスでは、ポテトチップスの袋に、「この一袋当たりの温室効果ガスは75グラムです。その内原料のジャガイモの栽培では44%、つまり33グラム排出されます。製造には30%、包装には15%、配送するのに9%、廃棄するのに2%です。」というように表記されています。

この目的の一つは、大きくは地球環境を壊す温室効果ガスが、何処で、どれ位出ているのかを追跡し、またその商品を買った消費者が、自分がどれくらいの温室効果ガスを排出しているのかを知ることによって、地球環境を守る意識を高めていくことにあります。

みなさんは味も値段も変わらないけれど、カーボンフットプリントのあるポテトチップスとカーボンフットプリントのないポテトチップスが店頭で並んで売られていたとすると、どちらを買いますか？

Q カーボンフットプリントのある方を選ぶと思います。

A ビジネス面では、消費者のこの意識が高まることにより、同じ商品でも温室効果ガスの排出が少ない方が好ましい商品となり良く売れるようになる。また、表示していない商品は信用を落としてしまい、手にも取ってもらえない、というような現象が起こることが考えられています。

つまり、企業がカーボンフットプリントに取り組むことは、企業のイメージアップだけでなく、商品そのものの競争力を強化することに繋がるのです。

Q もう、世界中で取り組まれているのですか。

A そうですね。まだ始まったばかりですが、先ほど紹介したイギリスや、フランス、スイス、ドイツなどで、いち早く取り組まれています。

また日本でも2008年に経済産業省が実用化に向けて研究会を設置しました。そして2009年3月3日、「カーボンフットプリント制度の在り方や基準」をとりまとめたと公表しました。

Q なるほど、それで今回の「えひめ先進環境ビジネス推進セミナー カーボンフットプリント編」のセミナー開催になるのですね。

A はい、排出量取引やカーボンフットプリントなど環境に関するビジネスは新しいビジネスです。それだけに難しさもありますがチャンスもあります。是非、沢山の方がご参加されますようお願いいたします。